

モンゴル：こころと身体のファーストエイド

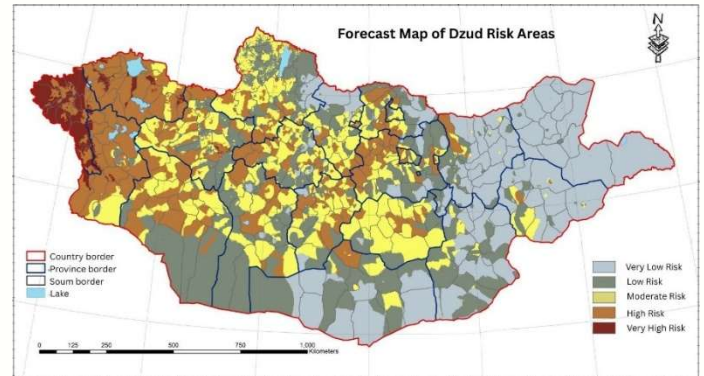
—過酷な環境下でも、いのちと健康を守るために—

社会課題

全家畜の14%にあたる810万頭が死亡、20年間で災害発生件数は2倍に

近年、気候変動の影響によりモンゴルでは「ゾド」と呼ばれる極端な冷害や雪害が発生。2023年の冬にはゾドにより18万世帯が被災し、2024年の冬には全国の家畜の14%にあたる810万頭が死亡するなど、深刻な被害が発生しています。

一方で、夏には干ばつや砂嵐、豪雨災害も増え、この20年間で災害発生件数は2倍に増加。気象災害への対応に加えて、貧困、へき地での医療サービスの不足等により、特に遊牧民など環境変化の影響を受けやすい人びとのいのちと健康が脅かされています。



2026年ゾドリスクマップ-被害は国土全域に予測されている
(水色から赤になるにつれて高リスク)

© モンゴル国国家非常事態庁(NEMA)

赤十字の解決策

日本赤十字社の専門家派遣を通じ、モンゴルの人びとのこころと身体の健康を支えます。

ゾド被害を受けた遊牧民へこころのケアを提供

ゾドによる家畜被害は、遊牧民の暮らしと精神面に大きな打撃を与えています。モンゴル赤十字社は被災者へのこころのケアを行うとともに、各支部に相談室を設置し、職員・ボランティア向けガイドラインを整備するなど、支援体制の強化に取り組んでいます。

日赤は、緊急時のこころのケア専門家を定期的に派遣し、ガイドライン策定への助言や研修への協力等を通じてこの取り組みを支援しています。



ゲルの中で遊牧民家族に話を聞く日赤職員

© モンゴル赤十字社

モンゴル赤十字社救急法担当職員へ研修を実施

救急法の指導者育成を担う日赤職員が2024年度から延べ4名、モンゴルに赴き、モンゴル赤十字社の支部職員に向けた救急法の講習を実施しました。モンゴル国内に救急法を根付かせ、資器材を整備し、救急法に対する人びとの意識や技術力を高めていきます。



救急法の指導をする日赤職員 © 日本赤十字社

社会的なアウトカム

ゾド被害を受けた遊牧民支援と、38,600 人に届くこころのケア

毎年3万人の遊牧民がより良い生活を求めて都市部へ移動しており、そのうち7,500人はゾドによる家畜の損失を理由としています。生計手段を失った遊牧民は、移住後も貧困や孤立など、心理的な困難に直面することが少なくありません。

こうした状況に対し、モンゴル赤十字社はこころのケアを通じて、遊牧民が社会とのつながりを取り戻し、生活再建への希望を持てるよう支援しています。2025年度には全国で38,600人にクラフトワークを通じたコミュニティの連携強化や、相談を受ける等のこころのケアを届けました。

令和8年度には新たに3支部(全33支部)に相談室を設置し、各支部のこころのケア担当者の育成にも継続して取り組んでいきます。



「ゾド」と呼ばれる冷害の影響により家畜被害を受けるモンゴル遊牧民 © モンゴル赤十字社

59,519 人が救急法講習を受講 正しい一次救命処置と応急手当で、守れるいのち

モンゴルでは毎年約500人が交通事故で命を落としており、その約75%は一次救命処置や応急手当で救えた可能性があります。しかし、多くの地域では救急法を学ぶ機会が十分ではありません。本事業では、2025年度にモンゴル全土で59,519人が救急法講習を受講し、地域の人びとが「いのちを守る行動」をとれる体制づくりを強化しました。

2026年度は、5支部に救急法研修の資器材を整備するとともに、救急法担当職員を対象とした指導スキル強化のための研修を日本赤十字社支援のもと行い、現場対応力の向上を目指します。



救急法講習を受ける高校生 © 日本赤十字社